

市場から世界をみれば

iSC 情報システム株式会社

大谷淳一



ヒトゲノムと同様、「種の保存」についても、遺伝子をめぐる戦争状態になっている。

「種の保存」という言葉は、一昔前までは「子孫を残す」に近い意味でも用いられていたが、近年は「生物多様性」にかかる概念として使われることが多い。一例として、いわゆる「種の保存法」(正式名称は「絶滅ムの全解析が終了した。遺伝子やタンパク質の構造解析が各国を遺伝子戦争へと向かわせた。遺伝子特許による新薬の開発や、難病とされた病気に対する特効薬が期待できるからである。そして当然のごとく、そこには特許による「巨大な利権」が絡んでくる。遺伝子をめぐって、まさに「戦争」が繰り広げられているのである。

2003年、ヒトゲノムの全解析が終了した。遺伝子やタンパク質の構造解析が各国を遺伝子戦争へと向かわせた。遺伝子特許による新薬の開発や、難病とされた病気に対する特効薬が期待できるからである。そして当然のごとく、そこには特許による「巨大な利権」が絡んでくる。遺伝子をめぐって、まさに「戦争」が繰り広げられているのである。

植物の遺伝子は、栽培種はもちろん、野生種や原種に至るまで、広範囲にわたって収集されている。特に野生種や原種の収集には力を入れていて、シード・ハンターの活躍の場はここにある。他の誰も手に入れないな

い原種を発見したとしよう。もしもこれが食糧にアイルランドでは麦も栽培され、現在日本で栽培されているイネの品種は150種ほどとなっている。それだけではなく、この150種のうち最大の収穫を上げて、シード・ハンターのもりあつたはずである。つまり、ジャガイモの遺伝子が40%弱に達している。さらに、このコシヒカリが40%弱に達して、シード・ハンターのもりあつたはずである。つまり、ジャガイモの遺伝子が40%弱に達している。さらに、このコシヒカリを含めた上位5品種のすべてがコシヒカリとな

第10回「シード・ハンター」中

なるとしたら、もしもこれらに薬効成分が含まれていいたら、これは大きなビジネスになる。遺伝子組み換えによる新種開発への可能性を創造できるかもしれません。同様のことは、日本のイネにも見られる。日本

培されていったが、多くは関係があり、その収穫高は全収穫高の80%にも達する。

参考文献「農業と経済2006年11月種・品種維持の課題と対策」

の確立はとても重要な事柄だ。

【略歴】

1957年北海道美唄市生まれ。85年、

テイング、セミナー、業務改革、講演を各地で行

務改革、講演を各地で行

のイネの品種の数は、1

879年(明治12年)で4000種を超えていた

ヤガイモの疫病がヨーロッパ全土で蔓延したのだ

と言われている。ところ